

ドイツ語の基本語彙と基本語彙でカバーできないもの

大菌正彦

1. はじめに

語学教育において基本語彙の策定は言うまでもなく重要である。発表者もかつて 5000 語レベルの語彙リストを作成したことがある (大菌 2015)。しかしながら基本語彙も万能ではない。本発表では、まず基本語彙リスト作成の実際や諸問題について概観した後、実際のテキストの理解には 5000 語程度の基本語では不十分であることを確認しつつ、テキストの理解のためには何が必要なかを考察した。

2. 頻度語彙リスト

2000 年代に入り、コーパスに基づいた頻度語彙リストが容易に参照できるようになった。ただしレマ化の問題など課題は多い。代表的な頻度辞典としては Jones/Tschirner (2006) が最も知られているだろう¹。しかしながら、Jones/Tschirner を他の頻度語彙リストと比較してみると、実際にはかなりの程度ずれが確認できる。また、当然のことながら、日本人学習者にとっての語彙という点は考慮されていないため、やはり基本語彙について検討する余地は残されている。

3. 学習語彙リスト

Goethe-Institut が公表している語彙リストや市販されている単語集などがある。発表者の調査では、これら学習語彙リストと先の頻度語彙リストの重複の程度は約 60% である。両者は、まったく一致しないとまでは言い切れないが、一方で無視することもできない程度の相違があると言えるだろう。

4. 独自調査語彙リスト

日本人学習者向けのドイツ語基本語彙リストを仕上げるには、最終的にある程度の調整が必要であると考えられる。発表者は、日本社会・文化を扱ったテキストや会話テキストを利用して小規模な語彙調査を行った。その後、以上 2.~4. の 3 種類の語彙リストを参照しながら、5000 語の語彙リストを作成した。

5. 基本語彙は万能か

語彙は、極めて高頻度で用いられる比較的少数の語と、あまり用いられない多数の語から成り立っている。つまり、テキストのカバー率を上げるのは特定の段階から途端に難しくなるが²、近年の語彙教育の研究によれば、テキストの理解には 95% 以上の語が理解できなければならないという指摘もある。

次はイギリスの EU 離脱を報じるニュースの冒頭部分だが、5000 語レベルの語彙 (大菌 2015) で 87.6% をカバーする。角括弧内の 4 語がカバーできない語である。

¹ その後の改訂版として Tschirner/Möhrling (2020) が出版されている。

² ちなみに Jones/Tschirner (2006) の約 4000 語で 80~90%、Tschirner/Möhrling (2020) の約 5000 語で 84~95% のカバー率とされている。

(1) Nach dem [Brexit] ist vor dem [Brexit]

Die [Britten] haben offiziell die Europäische Union verlassen. Doch die [Hängepartie] wird weitergehen – mindestens bis Ende des Jahres, wahrscheinlich aber noch viel länger. ...
(Deutsche Welle Nachrichten 31.01.2020)

括弧内の語を塗り潰してみると分かる通り、90%近いカバー率でも肝心な部分が理解できない。しかし、学習語彙の規模をこれ以上大きくするのも現実的でない。

ここで、語彙学習は基本単語の数だけが重要なのではないことにも目を向ける必要がある。4点指摘できる。まず1点目は Brexit のような時事的な語や新語の知識³。2点目は上例の見出しのような、広い意味での慣用句の知識（この例はサッカー監督 Sepp Herberger の名言 „Nach dem Spiel ist vor dem Spiel“ をもっている）。3点目は語形成に関する知識（Britten は 5000 語レベルに含まれないが、britisch という語が 2000 語レベルに含まれており、意味の推測が可能である）。そして4点目は専門語の知識である。上例の Hängepartie は本来チェス用語だが、ここではその語が比喩的に用いられており、専門語から一般語への意味の「一般化」が生じている。当然のことであるが、語彙学習では、多くの語を特定の語義とあわせてただ覚えるという硬直化した学習だけでは不十分であり、語彙の持つしなやかな側面を理解し、柔軟性を持った学習が重要となるということである。

6. 事例研究：専門語

最後に「専門語」に焦点を当て、一般語と専門語の間にはどの程度の差異が認められるのか、サッカー用語を例に検討した。国立国語研究所（1981）は、専門用語が基本語彙と重なっている場合を「意味づけあり」と呼んでいる。今回の調査では、Kicktionary というサッカー用語集から無作為に 100 語を抽出し、Jones/Tschirner (2006) の約 4000 語と重なり具合を調べてみた。結果は、「全体として意味づけあり」（Trainerbank など）が 44 例、「部分として意味づけあり」（Startformation など）が 15 例、「意味づけなし」（schlenzen など）が 41 例であった。

「意味づけあり」と言っても、実際には特定の語義で用いられるものばかりである。その分かりやすさは事例ごとに異なる。lang を例にとると、ein langer Pfosten は知識のない日本人には理解が難しいのではなかろうか。日本では遠方のゴールポストは「ファーポスト」と言うからである。

サッカー用語は、意味的な側面から大きく 3 つに分類できる。

- (2) a. 多義語：lang 〈(ポストが) フェアサイドの〉など
b. 比喩的に使用される語：Truppe 〈チーム〉など
c. ほぼ一義的な語：schlenzen 〈フリックする〉など

大まかに言って、a. は「意味づけあり」が多く、c. ではほぼ「意味づけなし」となる。b. は比喩を介して意味を拡張させているものであるが、a. と b. の境界は曖昧である（例

³ Brexit は先述の Tschirner/Möhrling (2020) では 4704 位にランクされている。

えば lang の意味拡張も元をたどれば比喩的なものであろう)。c. はほぼ単義の語で、最も専門語らしく見えるものである。ただし、これらの語を「意味づけなし」と呼んでしまうと、学習が困難だという印象を与えかねない。このタイプの語は、単義であるという点において、前提となる知識や思考法さえ理解できれば、さして学習に困難をもたらさない類の語であると考えられることもできる。

参考文献（抄）

Jones, R. L./Tschirner, E. (2006): *A Frequency Dictionary of German*. Abingdon.

国立国語研究所 (1981): 『専門語の諸問題』 秀英出版.

大藪正彦 (2015): 「日本人学習者のための、頻度に基づくドイツ語基本単語 5000」『人文論集』(静岡大学) 66 (1), 117-135.

Tschirner, E./Möhring, J. (2020): *A Frequency Dictionary of German*. 2nd ed. Abingdon.